



広報編集部 新企画スタート! よこさいOT名鑑 ～あなたの作業療法～

インタビューの
全文はこちら



左:渡邊氏 右:島田氏

取材者：渡邊 一規(白菊園病院)

この度、広報編集部の新企画がスタートします。職場が違えばなかなか知ることのできない仕事内容やその方の想い、人となりなどを伝えられる企画になればと思っています。今後、士会のホームページへ掲載していきますので、是非ともご覧ください。

白菊園病院リハビリテーション科

作業療法士 島田 尚典 氏



【プロフィール】

1984年生まれ、高知県高知市出身。
高校卒業後、大学進学を機に上京。
大学卒業後は東京でドラッグストアへ就職し一般職員として勤務。
その後、土佐リハビリテーションカレッジに28歳で入学。
卒業後は医療法人白菊会 白菊園病院へ入社し現在に至る。

渡邊 ▶ リハビリテーションの職種の中でも作業療法士になろうと思われたのはなぜですか？

島田氏

人の役に立てる職業として作業療法士を選びました!

作業療法士は対象者の生活を重点的にみるということや、精神分野にも強いということに興味を持ちました。自分の家族のことも考えたりして、自分にとって将来の役に立つのも作業療法士の方かなと考えました。

渡邊 ▶ 島田さんが日々の仕事をしている中で良かったと思うのはどのような時ですか？

島田氏

患者さんの喜ばれている姿を見たときに心から嬉しく思います!

やはり患者さんが元気になれる様子や、できなかったことができるようになり喜ばれている姿を見た時が、この仕事をやっていて最も良かったと思う瞬間です。元気になられて、本当に喜ばれて退院される姿を見た時も心から嬉しく思います。

広報編集部からのお知らせ

今年度でよさこいにゆーす発行・発送は終了!
来年度より、HPへ移行します!

今後お知らせなどは **士会公式LINE** を
活用しますので、登録をお願いします。

LINE登録はお済みですか？

士会からのお知らせや研修会のご案内をしています。
URLを添付しているので、LINEから研修会の登録ができて、とっても
便利です。

目指せ全員登録!!

記事を読んだあなた、今すぐQRコードの
読み込みをしてみませんか?(^^)



現在のLINE登録者数 **436名**

会員数 **775名** (令和5年1月末現在)

案内見本

令和4年度 地域包括総合事業部 地域ケア会議班 研修会
助言者として選ばれる作業療法士



県下50の地域包括支援センターに地域ケア会議の状況や、作業療法士に求める助言
内容を把握するべくアンケート調査を行いました。
本研修会では、アンケート結果について集約分析し、作業療法士の専門性が十分に活
かされる助言内容について、調査結果に基づいた提案を行います。
本会は、各自自治体の方にも声かけさせて頂いており、作業療法士の専門性や、作業療
法士に出来ることを伝える研修会となっております。
皆様からのご応募を、心よりお待ちしております!

【日 時】令和4年11月25日(金) 19時～20時30分

【形 式】ZOOMによるオンライン研修

【内 容】①高知県下各自自治体の地域包括支援センターへの
アンケート結果から求められるOT像を語る
②地域ケア会議にOTが参画することで伝えられること

【参加費】無料

【申し込み方法】右記のQRコードにアクセス下さい。

【申し込み締め切り】11月11日(金)



渡邊

日々の仕事をしていると良かったことだけではなく、大変なことも多いと思いますが、島田さんはこれまでにどのようなことが大変でしたか？

島田氏

これまでで一番苦労したことは患者さんとのコミュニケーションの取り方です。作業療法士になったばかりの頃は、患者さんとの円滑な人間関係や信頼関係を作ることに大変苦労した覚えがあります。そのような中で先輩方には多くの指導をしていただきました。姿勢や話しかけ方、関わり方などを学び、おかげで少しずつそれらを自分のものにすることができました。以前と比べると人間関係を構築することや、円滑な関係を作ることができるようになりました。それにより、より良いリハビリテーションに繋がっていくことができるようになったと思います。

渡邊

仕事をしていると大変なことも多くありますが、経験して乗り越えることができれば自分自身の成長にも繋がりますね。良い仕事をするためには休息や息抜きも大切だと思いますが、島田さんは仕事が終わった後や休日はどのように過ごしていますか？

島田氏

仕事が終わったあとは、家に帰ってお酒を飲むことが楽しみです。家にお酒は売るほど置いてあります。実家が酒屋なので(笑)。ただし飲むのはビール1本程度にして、翌日にお酒が残らないようにしています。休日は実家の手伝いなどもしています。また、趣味であった食べ歩きや飲み歩きが、コロナ禍になってから制限されている状況なので、最近はテイクアウトなどで買ってきて食べることにハマっています。

渡邊

現在、興味を持っていることや専門性を高めようとしていることがあれば教えてください。

島田氏

今後は在宅医療や地域リハビリテーションについてより取り組んでいきたいと思っています！

今現在、興味を持っている分野は在宅医療についてです。訪問などの地域のリハビリテーションにも興味を持っています。それに加えて、介護支援専門員の資格にも興味を持っています。その資格を持つことで、より多くの知識を得ることができれば、今後、作業療法士として仕事をする上でも活かすことができ、地域のリハビリテーションなどにも繋がっていくことができるのではないかと考えています。

渡邊

最後にこれからの抱負、また今後どのような作業療法士になりたいかを教えてください。

島田氏

これからの抱負について

これまで上司や先輩方にたくさんのことを教わり、助けてもらったことで今の自分があると考えています。そのため、今後は今まで教わったことや経験してきたことを、少しでも後輩たちにも伝えていきたいと思っています。それが患者さんのためにもなってくれたらと思っています。

どのような作業療法士になりたいかは、まだ自分の中で明確な答えがみつけれられていないので、今後はそのようなことも考えながら、明確なビジョンが持てるようにリハビリテーションを行っていきたくと思っています。

作業療法士経験者が語る 福祉用具業者からの助言！

02 弘田 和也氏 (株トーカイ) への取材



弘田氏

取材者のコメント

作業療法士として、病院勤務を経て、(株)トーカイ福祉用具業者へ転職し、ご活躍をされている弘田和也氏に取材をしました。在宅生活を送る上で、重要となる環境調整について、必要な視点などを助言していただきました。

インタビューの全文はこちら



田上

弘田さんが転職した理由を教えてください。

弘田氏

転職するまでは地域の総合病院で4年間勤務し、様々な疾患の方に関わる中で、私が携わった患者様が退院後にどのような生活を送っているのか、困っていることはないかなどを考え、悩むようになりました。特に在宅での環境調整の重要性を感じましたが、福祉用具の知識や経験が乏しく、スキルアップのためには、福祉用具業者への転職が一番の近道になるのではないかと考えていました。

田上

退院前の環境調整を行う前に、リハビリテーションスタッフから知りたい情報はありますか？

弘田氏

身体機能や日常生活動作などの情報は、ケアマネジャーより、事前に書類が配布されることが多く非常に助かっています。欲を言えば、ご利用者とご家族が、今後どのような生活を送っていききたいのか、生活目標や課題点は何があるのかをケアマネジャーや福祉用具業者へ明確に教えていただければありがたいです。また、ご家族の協力体制や介護力及び介護手段などの情報があれば、より目的に沿った適切な用具の選定ができると考えています。

田上

実際に訪問すると自宅で必要な動作手段や環境設定などが異なる場合が多々あり、入院時訪問が重要であると感じています。最後に病院や地域で働いているスタッフの方へ環境設定などについてアドバイスをお願いします。

弘田氏

私も入院時の家屋調査が大切であると考えています。退院に向けてリハビリテーションを行う中で、入院初期に自宅環境の把握をすることで、目標設定や用具の選定も明確になると思います。ですが、業務が多忙の中で、入院時の訪問に行けないことも多々あると思います。そのような時こそ、退院時の医療・介護分野での連携が重要であり、目標設定や生活課題を明確化し、今後どのような環境調整の検討が必要であるかなど、情報共有を図ることが在宅生活を支援する上で重要であると思います。

環境調整に関しては、ご利用者やご家族へ必ずメリット・デメリットを伝えた上で、納得された内容であることが重要であり、日々意識して取り組んでいます。手すりの設置ひとつでも、予後予測に応じて、身体状況の変化が考えられる場合は、据え置き式などの貸与商品を奨め、普遍的に必要な箇所には住宅改修の選択を提案しています。また、一緒に生活を送るご家族や主介護者などの意向や生活様式への配慮も必要です。特にトイレや浴室、玄関などの共有スペースは、お互いの要望の擦り合わせを行い、環境調整を行います。より良い在宅生活を送るために、ご家族や主介護者を含めた環境調整、福祉用具の選定であることを念頭に入れて、取り組んでほしいと思います。

取材者：田上 大祐(仁淀清流苑)

訪問リハビリの魅力と首都圏の特徴について 濱田 彩夏氏 (株One World Family) への取材

濱田氏



取材者のコメント

住み慣れた場所や環境も一変し、東京都で訪問リハビリテーション（以下：訪問リハビリ）に就職し、ご活躍されている濱田氏に高知県と東京都での訪問リハビリの違いなど、お話を聞く機会をいただきました。

インタビューの全文はこちら



岡村 東京都での訪問リハビリの内容や高知県との環境の違いなどを教えてください。

濱田氏

東京都は、駐車場がないご自宅や道路が狭い場所も多いので、電動自転車移動しています。雨や雪の日の移動は、レインコートが必要のため大変な時もあります。高知県との大きな違いは、東京都は都外へ住まわれる方が少なく、家族様の支援が受けやすい環境であると感じました。

岡村 良かったことや印象に残っているエピソードはありますか？

濱田氏

交通機関の利用や他職種と連携した社会参加の支援など、作業療法士としてできる事が多く、やりがいを感じています。また、ご自宅でターミナルを迎えられる利用者様もいらっしゃり、私に関わる中で、利用者様や家族様のために、何が出来るのか、何をすべきなのか悩んだりもしました。

岡村 最後に、地域や訪問リハビリに興味がある方にメッセージをお願いします。

濱田氏

訪問リハビリの最大の魅力は、病院を退院された方や地域生活をされている利用者様と、長期に渡って関わり、添い遂げていけるところだと思います。地域での作業療法士の役割や必要性は大いにあり、今後も訪問リハビリの魅力をみつけていこうと思います。

取材者：岡村 亜弥 (いずみの病院)

大腿骨骨折に対する作業療法士の専門性について 仲川 健氏 (近森オルソリハビリテーション病院) への取材



仲川氏

取材者のコメント

私は働き始めて2年目となり、整形疾患に携わる機会も多く、仲川氏に取材を行い、訓練での留意点や取り組みなどの助言をいただきました。

インタビューの全文はこちら



青木 大腿骨骨折で入院される患者様はどのような方が多いですか？

仲川氏

主に近森病院で手術を行い、当院には術後1～2週間で入院され、術後早期であるため疼痛を訴えられる方も多くいらっしゃいます。

青木 訓練は具体的にはどのような内容をされることが多いですか？

仲川氏

荷重制限に応じた立位訓練や排泄などのADL訓練は、実際の病棟環境で実施しています。例えば、免荷など荷重制限が必要な方は、ベッドから車椅子への移乗や車椅子から便座への移乗を実際場面で確認しながら病棟生活の中でも荷重制限が守れるように訓練を行っています。

青木 患者様と関わる際に大切にしていることや、会員に向けてメッセージをお願いします。

仲川氏

患者様と合意した目標に向かって、計画を立案しますが、チームアプローチの中で作業療法士の視点や専門性を大切にしています。整形以外の分野でも同じですが、OTの視点を持ち、患者様と会話をする中で、生活課題や困っていることに気づくことも多く、少しでも患者様のための関わりが出来ると思います。もし自分が入院したら…、という風に置き換えて考えて、関わる事が大切であると思います。会員が一丸となり、高知県の作業療法を盛り上げていきましょう。

取材者：青木 拓夢 (いずみの病院)

広報戦略部による地域の方へのアンケート調査が行われました！

インタビューの全文はこちら



左：西内氏 中：佐野氏 右：市川氏



左：浅川会長 右：山下氏

令和4年11月12日(土)に高知市内で広報戦略部による地域の方へのアンケート調査が行われ、広報編集部で取材に伺ってきました。

広報戦略部では、地域及び関連他職種に対する作業療法の啓発などの活動をされています。今回のアンケート調査について、広報戦略部部長の佐野秀平氏(海辺の杜ホスピタル)からは、「今回はコロナ禍で行えていなかった屋外でのイベントを久しぶりに企画し、作業療法の広報、土会グッズの配布、地域の方へ“作業療法の知名度に関するアンケート”を実施しました。地域の方の声やアンケートの結果を参考に、より良い啓発活動が行えるよう検討していきます。」と意気込みをお話いただきました。

イベント場所は、中央公園前の帯屋町アーケードと金高堂書店本店前の2か所で行われ、帯屋町アーケードでは歩かれている方へ声を掛けて、金高堂書店前では机と椅子を設置し、ご高齢の方などにお話を伺いながらアンケートを実施していました。実際にアンケートを実施した戦略部の方からは、「以前より作業療法士の知名度は高まっています」と地域の方々の声を教えていただきました。

私自身、所属施設で対象者の方々に関わる中で、生活様式や暮らされている地域の資源によってニーズが異なり、また、近年の新型コロナウイルスの影響により、活動や参加に消極的になられる方が増えてきたと感じています。作業療法の啓発をするためには、実際に地域の方々の声を聞き、今の時代や地域の方々のニーズに合わせた啓発をしていくことが重要だと思いました。

取材者：森 祐輔(だいいちリハビリテーション病院)

第17回 高知県作業療法学会のお知らせ

学会長 小野 裕正 (だいいちリハビリテーション病院)

日時：令和5年6月24日(土)

場所：土佐リハビリテーションカレッジ

開催形態：ハイブリッド開催(場合によってはオンラインのみの開催)

今回の学会テーマは「つながり続けるために～コロナ禍の作業療法とその可能性～」とし、将来のwithコロナやポストコロナ時代に向け、作業療法の可能性を見出し、今後の作業療法の一助となる場にと考えています。

基調講演は、田中きよむ先生(高知県立大学 社会福祉学部 教授)をお招きし、「コロナ禍が与えた地域への影響と支えあいの共生型地域づくり」について講演していただきます。また、シンポジウムでは、「コロナ禍における作業療法士の取り組み～多分野で考える～」をテーマに、病院から地域まで、様々な分野の高知県内の作業療法士の方に講演していただき、広い視点での取り組みや、今後の可能性について考える場になればと思っています。一般演題は口述発表のみとしておりますが、発表者との活発な意見交換の場になることを期待しています。

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、対面で学会や研修会に参加する機会も少なくなり、会員の皆様の中には対面で参加されることがない方もおられるのではないのでしょうか。対面で学会へ参加することも選択肢の1つとして考えていただければ幸いです。是非、学会への参加をよろしく願います。

お問い合わせ先：kochi.ot.17th@gmail.com